

平成31年度事業計画

1. 文化財の研究事業

文化財調査業務、保存処理業務等の中で課題となった問題点や業務の過程で蓄積されたデータを基礎に、そこから生まれた着想、着眼点を発展させた研究活動や受託研究事業を行う。また、他機関との連携協力による研究活動など対外的な研究交流活動も積極的に進めるほか、研究成果の還元は学会、研究会等での発表・報告を行う。

科学研究費補助金

当研究所に所属する研究員は科学研究費補助金の出願が可能であり、積極的に申請して文化財に関する研究活動を進めている。科学研究費は研究者に対する補助金であるが、その管理はその所属機関に任されている。また、補助事業の実施に伴う研究機関の管理等に必要な経費として、主要な科学研究費については直接経費の30%が科学研究費間接経費としてその所属機関に措置される。平成31年度の科学研究費補助金は、継続研究課題として4件が内定しており、新規研究課題として19件を現在申請中で、審査結果を待っている。

(1) 継続研究課題

基盤研究 (B) 補助金

「出土木製品マイクロ波加熱凍結乾燥処理法の実用化研究」

2017～2020年度 川本耕三 13,700 千円 (研究期間合計額)

「海外文化財輸送技術との比較による日本の文化財輸送技術の発展に関する研究」

2017～2020年度 雨森久晃 11,600 千円 (研究期間合計額)

基盤研究 (C) 基金

「疑似出土木材の調製」

2017～2020年度 山口繁生 3,400 千円 (研究期間合計額)

若手研究 (B)

「施釉陶器色調計測の基礎的研究」

2016～2018年度 田中由理 1,400 千円 (研究期間合計額)

(2) 新規申請中課題 (計19件)

基盤研究 (A) 一般	2 件	基盤研究 (B) 一般	3 件
基盤研究 (C) 一般	3 件	若手研究	8 件
挑戦的研究 (開拓)	1 件	挑戦的研究 (萌芽)	2 件

2. 文化財の調査・整理事業

文化財調査修復研究グループ

人文科学担当

南都十輪院歴史資料調査および寺史編纂事業は引き続き関連資料調査を行う。

総本山長谷寺文化財等保存調査事業は平成31年度も継続して実施する。

世界文化遺産指定推進のための四国遍路札所寺院の文化財詳細調査を行う見込みである。

考古学担当

奈良県、和歌山県で発掘調査等を行うとともに、前年度までに行った発掘調査の整理と報告書作成を行う予定である。

記録資料担当

国立歴史民俗博物館所蔵資料のコンディション調査を継続して行う予定である。

保存科学研究グループ

文化財を後世に伝えるには、保存処理後も定期的に資料の形状や表面状態などを調査することが必要である。同時に資料の劣化の進行を抑えるためには収蔵環境が適切であるかの調査も必要である。さらにそれらの結果から今後の改善策を提案している。

平成31年度も大阪府・京都府で現地調査を予定している。

奈良市補助金事業 仏教民俗資料の収集調査

奈良市内所在石造文化財の調査（9）

平成31年度も平成30年度に引き続き、奈良市内に所在する古式の宝篋印塔や五輪塔などについて詳細な調査を行う。調査・研究の成果については、『元興寺文化財研究所研究報告』に掲載し、奈良県内の教育委員会、図書館、博物館、大学をはじめとする全国の文化財関連機関に配布する予定である。

3. 文化財の分析事業

保存科学研究グループ

文化財を自然科学的手法で分析することによって、その材質や構造等を明らかにし、産地や年代等を推定することができる。資料の顕微鏡観察、金属や顔料の蛍光X線分析、漆や繊維の赤外分光分析等を行う。

4. 文化財の保存修復事業

文化財調査修復研究グループ

伝世資料担当

平成31度は重要文化財を中心に現地処置も行いながら修復を行う。

東日本大震災による被災資料の修理も引き続き行う予定である。

他に石造文化財の修復も計画している。

記録資料担当

文書・絵図類等の紙資料の修復事業は^{すきばめほう}漉嵌法、繕い、裏打ちなどの技法を用い、資料の原形を損なわない修復を原則として進めている。

また、公文書のデジタル化事業に伴う原本修復に際し、現地作業員への技術指導を依頼されている。

埋蔵文化財保存研究グループ

木製品担当

平成31年度も重要文化財を中心に保存修理を行なう予定である。

金属製品担当

継続して行っている国宝の修理では銅剣の保存修理、出土金属製品の保存修理を行う。

その他重要文化財を中心に保存修理などを予定している。

土器・3D担当

国の指定文化財の修理としては、昨年度から引き続いて重要文化財である全高240cmを超える大型有段口縁円筒埴輪の保存修理を予定している。その他重要文化財の保存修理を予定している。

また、当室では三次元計測等の事業も継続して行っており、平成31年度は昨年度から引き続き、国宝の三次元計測及び保管台の改修事業を実施する予定である。

5. 研究会、展覧会、講演会の開催及び開催支援事業
春季企画展

『元興寺地蔵会行燈絵』名品展

※宗教法人元興寺と共催

開催期間 4月26日(金)～6月30日(日)

開催場所 元興寺法輪館

本年3月16日からJR西日本の「はじまる、つながる、奈良の旅～おおさか東線全線開業記念～」キャンペーンが開催されるが、これまでに同社「ちょこっと関西歴史たび」を展開した奈良の世界文化遺産登録の5社寺（法隆寺、東大寺、興福寺、春日大社、元興寺）がそれぞれ特別企画を設定することとし、春季企画展としてこれまでとは少し観点を変え、「『元興寺地蔵会行燈絵』名品展」を開催する。

元興寺地蔵会は昭和23年に復興され、今では数千人の善男善女が訪れる奈良の処暑を代表する行事となった。極楽堂内では各界知名士奉納の行燈絵掲げられるが、これまで寄せられた行燈絵は、戦後の元興寺復興が多くの方々支えによりなされた証であるとともに元興寺の宝ともいえる。

今回はそれらの中から選りすぐりの作品百数十点を法輪館に展示し、より多くの方々に訪れていただき、元興寺の持つ別の一面を知っていただくとともに、「歴史を残す」ことの意義や重要性和、その大変さに理解をいただくことを目的とする。

秋季特別展

『古代瓦の世界―藤澤一夫コレクションから―』（仮題）

※宗教法人元興寺と共催

開催期間 10月26日(土)～11月10日(日)

開催場所 元興寺法輪館

四天王寺国際大学教授で当研究所の嘱託研究員でもあった藤澤一夫氏が、若き日に各地を歩き回って採集された遺物、なかでも古瓦を中心に展示する。

藤澤氏は戦前、朝鮮総督府で学芸員として勤務し、韓国の重要な遺跡の調査にも携わり、戦後は大阪府教育委員会技師として府下の文化財保護に尽力し、その後四天王寺国際仏教大学にて教鞭をとられた。古瓦研究のパイオニアであり、瓦仙人の名で親しまれた。

収集された資料の中には、韓国扶余の百濟時代寺跡出土品があり、元興寺の前身・飛鳥寺出土瓦に文様が酷似するものも含まれている。その他、大阪府下を中心とした古代寺院の古瓦が多数採集されており、現在その資料は当研究所総合文化財センターの一室で預かり、整理を進めている。

文化講座の開催

実践文化財学

講座編「保存科学から歴史を読む」

元興寺文化財研究所が創立以来半世紀にわたって行ってきた元興寺の歴史や文化財に関する人文、考古、保存科学などの各分野からの多面的調査や研究の蓄積と最新の成果を、研究所研究員がわかりやすく報告する。

場 所 総合文化財センター ルーパ館3階
時 間 13:30～15:00

第1回	5月 8日 (水)	「 ^{りよくゆうとうき} 緑釉陶器の色を測る」	田中由理
第2回	6月12日 (水)	「 ^{かぶと} 甲 とさび」	初村武寛
第3回	7月10日 (水)	「 ^{ぞうがん} 『象嵌』ってなに？」	尾崎 誠
第4回	8月 7日 (水)	「科学の眼で見る古代日本の櫛」	木沢直子
第5回	9月11日 (水)	「 ^{こはく} 琥珀が語る古代の物流」	植田直見
第6回	10月 9日 (水)	「東大寺大仏発見の ^{ちんだんぐ} 鎮壇具」	塚本敏夫
第7回	11月13日 (水)	「金属製遺物の年代を測る」	山田哲也
第8回	12月11日 (水)	「金の馬具と鉄の馬具」	尼子奈美枝

『発掘された日本列島2019』展

平成20年度から受託している文化庁と開催各館とが主催する『発掘された日本列島』展の開催と運営に関する業務の一般競争入札に応札し、結果を待っている。

本事業は、平成30年度までは随意契約の一種であるプロポーザル（企画競争）方式により事業者選定が行われていたが、平成31年度からは総合評価落札方式による一般競争入札となった。この方式は技術・ノウハウ等の価格以外の要素と入札金額を総合的に評価して落札者を決定する方式である。

開催予定館 東京都江戸東京博物館 花巻市博物館 三内丸山遺跡縄文時遊館
名古屋市博物館 大野城心のふるさと館

6. 報告書、書籍等の刊行

公益財団法人畠山文化財団助成事業

『元興寺文化財研究所研究報告2019』（1,300冊）の刊行

公益財団法人 ^{えぼら}荏原 畠山記念文化財団からの助成金を受け刊行を予定している。

7. 体験活動

施設見学等

研究、調査成果を社会に還元し、文化財の保護の重要性に対する深い理解と関心を高めることを目的として、博物館実習、職場体験、施設見学を受け入れる。

総合文化財センターにおいては、定期的に一般個人向けの施設見学会を開催する。

開催日は7月10日（水）、8月8日（木）、9月11日（水）、10月10日（木）、11月13日（水）、12月12日（木）、2月13日（木）の7回を予定している。

なお、団体見学については日程を調整しながら業務に支障の無い範囲で随時受け入れる。